

社外監査役からのコメント

社外の立場から東洋インキグループのグローバル感知力の強化と事業変革、マネジメントの質的向上を支援

東洋インキグループのコーポレートガバナンス・コードへの対応は着実に進んでおり、取締役会における議論は量、質ともに向上し、議論が活発化していると評価しています。企業を取り巻く外部環境が急激に変化している中、私は社外監査役として柔軟かつ適切に執行との距離をとり、グローバルな経営動向と現場の実状の双方を踏まえた「T字型」の助言をするように努めています。

東洋インキグループは、コア技術に立脚した高品質でバリエーション豊かな製品群とグローバルにおけるオペレーション展開力、それらを可能にする人材を有しており、持続可能な成長に向けた大きなポテンシャルがあると考えています。また、東洋インキグループが行うサステナビリティへの取り組みは、お客様やパートナー、操業地域などとの間で築いてきた信頼関係という裏付けによってレジティマシー（正統性）を獲得しており、競争優位性もあると考えています。

これらの強みは、創業以来の長い歴史の中で積み上げてきたものですが、次の100年の成長に向けて克服すべき課題も見えてきています。例えば、昨年の海外子会社における不適切な会計処理の事案は、グローバル展開に

社外監査役
池上重輔

〔現職〕
早稲田大学大学院
経営管理研究科 教授



おける人材の多様化と適切なマネジメントの在り方を問い直す契機になるものです。そこには、より適切なグローバルマネジメントを実践する人材の育成とマネジメント体制の構築が必要でしょう。また、デジタルトランスフォーメーションがさらに加速する社会を見据えて、外部環境の動向をキャッチする「感知力」を高めるとともに、メカトロニクスやデジタルなど化学以外の領域も強化するなど、変革のギアを上げる必要があります。

東洋インキグループがグローバルでの感知力を高め、サステナブルな社会を牽引していける企業となるよう、国内事業の変革とグローバルマネジメントの質的向上を支援していきたいと思っております。